



今月のことば

令和7年(2025)5月 <No.225>

大切に 見えないもの



さびしいとき
金子みすず

私がさびしいときに、
よその人は知らないの。
私がさびしいときに、
お友だちは笑うの。
私がさびしいときに、
お母さんはやさしいの。
私がさびしいときに、
仏さまはさびしいの。



金子みすずさんの詩を読むと、ホッと安心するような、ハッと気づかされるような気持ちになります。私たちが日常生活では意識することのない、「大切な、でも見えないもの」を、具体的な言葉にしてくれているからでしょうか？

親鸞聖人が、仏さまのはたらきについて、次のように書かれている一節があります。

仏は、数限りない世界のすみずみにまで満ちわたっておられる。
すなわちすべての命あるものの心なのである。 『唯信鈔文意』



目には見えないかもしれないが、仏さまのはたらきはあらゆる世界に満ちわたり、私たちの心にも必ず届いている、というお言葉です。金子みすずさんの詩を発掘し、世に広めた矢崎節夫さんは、次のように語っています。

『金子みすず こころの宇宙』矢崎節夫より

みすずさんの「さびしいとき」を読むと、なんだかとってもうれしくなります。…

仏さまはわたしたちの外にいらっしゃるではありません。わたしたちの中に、わたしたちと一体となって、いてくださるのです。そして、わたしたちがさびしいと思ったその瞬間、仏さまは自分のさびしさとして、一緒にさびしがってくださっていたのです。…さびしさを自分のこととして、まるごと受け入れてもどしてくれるのです。この時、わたしのさびしさは、半分になって返ってくるのです。

「さびしいね」「さびしいね」と仏さまが“こだま”してくれるたびに、わたしのさびしさは半分の半分の半分の…と、減っていくのです。

私たちの心に、どんな時も仏さまがいてくださることを忘れないようにしたいものです。そして「なまんだぶ。なまんだぶ。」とお念仏申すたびに、私たちはそのことを思い出すことができます。



慧日山 真光寺